

地域危険度一覧表の見方

<地域危険度一覧表（例）>

町丁目名	地盤分類	建物倒壊危険度			火災危険度			災害時活動困難度			総合危険度		
		危険量 (棟/ha)	順位	ランク	危険量 (棟/ha)	順位	ランク	困難度	順位	ランク	危険量 (棟/ha)	順位	ランク
〇〇1丁目	谷底低地1	2.38	1890	2	0.02	4104	1	0.03	4268	1	0.06	3721	1
〇〇2丁目	台地2	3.83	1151	3	1.06	931	3	0.17	1255	2	0.82	682	3
〇〇3丁目	沖積低地4	12.76	86	4	14.19	44	5	0.11	2390	2	3.00	113	4

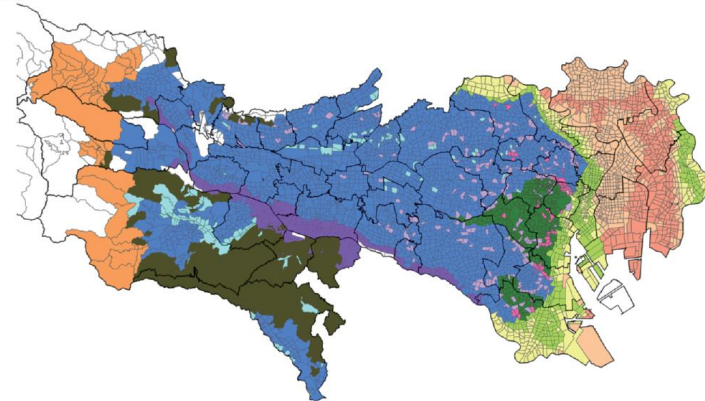
<各項目について>

- ・ **建物倒壊危険度** 建物倒壊の危険性
- ・ **火災危険度** 火災の発生による延焼の危険性
- ・ **災害時活動困難度** 道路の整備状況による災害時の活動の困難さ
- ・ **総合危険度** 建物倒壊危険度、火災危険度に災害時活動困難度を加味して総合化

・地盤分類

地盤分類は、以下「地盤分類図」により、町丁目別に12種類の地盤に分類し、各地盤分類について、増幅率を設定して地盤の揺れやすさを示しています。増幅率の数値が大きいほど地盤が揺れやすいことを示します。

地盤分類図



出典：東京都土木技術研究所「東京都地盤地質図(23区内)」(昭和44年)、東京都防災会議「東京区部の地盤区分図」(昭和53年)

山地・丘陵・台地		増幅率	
山地	山地	1.0	形成された年代が古く、洪積層を中心とした地盤です。固結した地盤のため地震が起きた場合でも揺れが増幅されにくいことから、比較的危険度が低い地域です。
丘陵	主に丘陵地	1.4	
台地1	河成礫層の上に関東ローム層	1.6	
台地2	堆積粘土・砂層の上に関東ローム層	1.7	
谷底低地		軟弱層の厚さ	増幅率
谷底低地1	3m未満	1.5	台地を刻む谷底での堆積物でできているため、軟弱な地盤です。地震が起きた場合に、揺れが増幅されやすいことから、比較的危険度が高い地域です。
谷底低地2	3m以上8m未満	1.8	
谷底低地3	8m以上	2.0	
沖積低地		軟弱層の厚さ	増幅率
沖積低地1	主に河成礫	1.5	形成された年代が新しく、沖積層を中心とした地盤です。主に海面下での堆積物でできているため軟弱な地盤となっています。地震が起きた場合に揺れが増幅されやすいため比較的危険度が高い地域です。
沖積低地2	10m未満	2.3	
沖積低地3	10m以上25m未満	2.6	
沖積低地4	25m以上40m未満	2.9	
沖積低地5	40m以上	2.9	

・危険量（棟/ha）

危険量は、地震による危険性の度合いを示すものです。

「建物倒壊危険量（棟/ha）」は、地震による面積当たりの建物全壊棟数、「火災危険量（棟/ha）」は、地震による面積当たりの建物全焼棟数をそれぞれ示しています。

「総合危険量（棟/ha）」は、「建物倒壊危険量（棟/ha）」、「火災危険量（棟/ha）」の各値に、地域レベルの道路整備状況などから評価した災害時活動困難度の値を掛け合わせ、それを合算したものです。

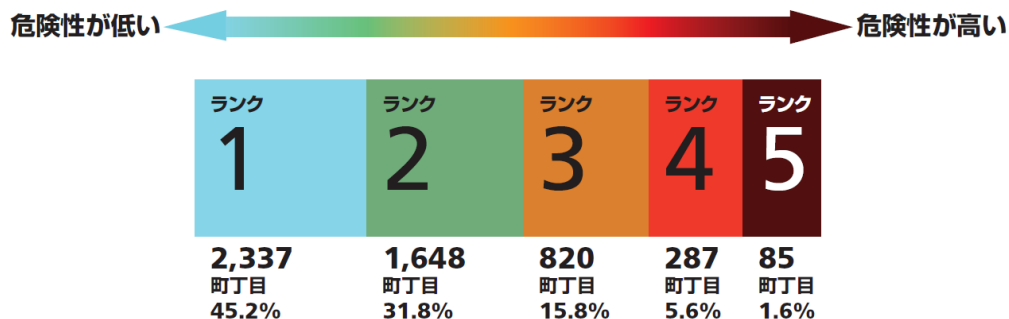
危険量の数値が大きいほど、地震による危険性の度合いが高くなることを示します。

・順位

都内の市街化区域の 5,177 町丁目について、危険量の大きい町丁目から順位付けを行ったものです。順位の数値が小さくなるほど、地震による危険性の度合いが高くなることを示します。

・ランク

地域危険度のランクは5段階の相対評価としています。各ランクの存在比率をあらかじめ定め、上記順位に基づき、ランクを割り当てています。



(注) 危険度のランクは相対評価のため、安全性が向上していても、他の町丁目の安全性がより一層向上している場合には、危険な方向にランクが変化している場合があります。